

平成30年度
伴走型小規模事業者支援推進事業
報告書
事業計画策定後の支援

湖東の手技ワークショップ

平成30年11月
湖東3町商工会
伴走型小規模事業者支援推進委員会

伴走型小規模事業者支援支援事業 事業策定後の支援 企画シート

事業名 深まる秋、芸術の秋、湖東でものづくりを楽しもう

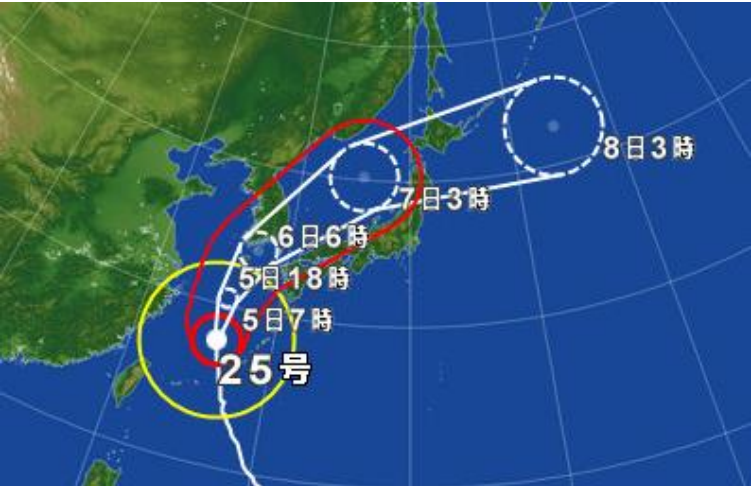
湖東の手技ワークショップ

WHO	対象者	<p>【参加者】</p> <p>県内中央地区の高校1～2年生、美大生や、事業引継ぎ支援センターの後継者人材バンク登録者を対象に参加者を募る。</p> <p>【ワークショップ実施者】</p> <p>当地域の地場産業、伝統産業を支える「湖東3町匠集団」等の事業所。</p>
WHY	目的・効果	<p>【目的】</p> <p>職人の技術や既存製品に対して、新たな価値を付加し、地域地場産業のイメージアップと小規模製造業者の新たな販路の開拓と、事業承継や当地域での起業意識の醸成を図ることを目的に開催する。</p> <p>【効果】</p> <p>① 事業承継や後継者育成といった「事業者と第三者後継者」へ繋ぐ支援の体制の構築や、起業意識の醸成が図られる。</p> <p>② 事業を通じて参画事業者（ワークショップ実施者）に気づきを与え、製品への新たな価値が付加されることで、販路開拓に繋がり、地域地場産業、伝統産業を生業とする小規模製造業の経営基盤の強化（イメージアップ）が図られる。</p> <p>③ 当該事業の実施は企業ライフステージに併せた個社支援に繋がり、経営発達計画の推進に資する効果が得られる。</p>
WHAT	企画概要	<p>【つくる】</p> <p>実施日を一日で完結とせず、10月から11月の期間中の土日開催で、参画事業者の都合に合わせた実施日とする。</p> <p>ものづくりを体験し、参加者自身のキャリア形成を図る。</p> <p>【かんがえる】</p> <p>11月17日、午前（10：30～12：30）第二創業的視点（ベンチャー型事業承継）による土着ベンチャーと田舎で成功するビジネスの秘訣を学び、湖東3町の地域地場産業、伝統産業の可能性と、起業、事業承継の醸成を図る。</p> <p>【インターンシップ】</p> <p>参加者の自主的な取り組みとして、冬休み等を利用したインターンシップやアルバイトといった行動に繋げ、ものづくりをより深く体験してもらう。</p>
WHEN	実施時期	<p>① 【ワークショップ（つくる）】</p> <p>平成30年10月7日（日）10月13日（土）10月27日（土）</p> <p>② 【ディスカッション（かんがえる）】</p> <p>平成30年11月17日（土）10：30～12：30</p> <p>講師（司会進行・意見集約他）1名 ハバタク(株) 丑田 俊輔氏</p> <p>講師（アドバイザー）1名 Chiso 柳澤 龍氏</p>
HERE	実施場所	<p>① ワorkshop（つくる）実施事業所</p> <p>② ディスカッション（かんがえる）湖東3町商工会五城目事務所</p>
HOW	企画詳細	<p>AGENDA</p> <p>【ワークショップ（つくる）】</p> <p>【手技ワークショップ参画事業所】</p> <p>① 石材加工業 10/7（日） 13：00～15：00</p> <p>② 建具製造業 10/13（土）10：30～12：30</p> <p>③ 技能教授業 10/13（土）10：30～12：30</p> <p>④ 皮革製造業 10/13（土）13：00～15：00</p>

1. 上記計画に基づく事業実績

【ワークショップ】

10月7日（日）

事業所名	テーマ（内 容）
石材加工業 1	石材の目立てなど
内 容	<p>台風25号の接近により中止 参加予定者：6名（男性：0名/女性：6名）</p> <p>【台風進路】 10月5日（金）現在、台風25号は沖縄近海を北上。中国・四国から東北にかけては太平洋側を中心に雨となり、沿岸部では強い風が吹く見込み。明日（土）午前中、西日本に接近する見込みでワークショップ開催日には本県を通過する予定。</p> <p>【参考：10/5 秋田魁新報記事】 秋田地方気象台は4日、大型で非常に強い台風25号が7日午前にも本県へ最接近する見通しを示し、暴風や高波への警戒を呼び掛けた。県内では予定されていたイベントの中止や延期も相次いでいる。</p> <p>台風は5日に沖縄へ最接近する見込みで、その後は日本海を北上し、本県沿岸部に近づく見通し。7日の県内は各地で強い風雨に見舞われる可能性があるとし、気象台は「土砂災害や河川の増水にも警戒が必要。台風は進路が変わるため、小まめに気象状況を確認してほしい」としている。</p> <p>これを受け、7日に開かれる予定だった秋田市の秋田国際ファミリーマラソン大会、北秋田市の合川駅秋まつり、横手市の親善ばら展の中止が決まった。八峰町で6日に始まる「んめものまつり」も、最終日の7日を中止とした。</p> <p>男鹿市の市複合観光施設「オガール」（道の駅おが）は、7日の男鹿産ベニズワイガニの詰め放題イベントを8日に延期した。</p> <p>【結果】 上記を参考に参加者及び事業所の安全を考慮し、10月7日（日）開催のワークショップは中止することとし、参加予定者へ連絡した。</p> 

10月13日（土）10：30～12：30

事業所名	テーマ（内 容）
建具製造業	日本の木工技術、釘を使わない組木を体験しよう
内 容	<p>参加申込者：5名（男性：1名/女性：4名）当日欠席1名</p> <p>建具業界を取り巻く現状と、自社の事業活動の取り組みについて参加者に対して説明。</p> <p>建具製造の伝統的特殊技法でもある、組子細工や組木を体験。</p> <p>また、マイ箸づくりでは、参加者自らがカンナを使い、木の表面を削り仕上げました。</p>
事業所名	テーマ（内 容）
技能教授業	彫刻体験
内 容	<p>参加申込者：4名（男性：0名/女性：3名）</p> <p>国外の伝統的な彫刻に挑戦し、季節柄ハロウィンを彫りました。</p>

10月13日(土) 13:00~15:00

事業所名	テーマ(内容)
皮革製造業	革職人の拘りが生む完成度の高い逸品の数々。三角コインケースを作ろう
内容	参加申込者: 4名(男性1名/女性3名) 自社の事業内容を説明。また、当社が拘り続けている手縫いとミシン縫いの違いや、革の表面に施すハンドグレージング技術についてサンプルを基に説明しました。 参加者は三角コインケースと革製パレット(髪留)の中から自分がつくりたい方を選び、革製品づくりに必要な技術の体験をしました。時間が余ったので、革製コースターのへり落としを行い終了しました。

10月27日(土) 10:30~12:30

事業所名	テーマ(内容)
石材加工業2	石工の流儀教えます。男鹿石を使った焼肉用石板プレートを作ってみよう
内容	参加者: 5名(男性0名/女性5名) 墓石加工以外の自社が製造している製品について説明。今回は、工場での作業としてコンロ用の焼肉石板に溝を掘る加工技術と、原石からBBQ用焼肉石板を切断機械を使い切断して、石板の淵を切り落としグラインダーで研磨する技術を体験。また、事務所では石板にゴム製のカッティングシートを用いて、絵を切り抜きサンドブラストによる絵付け体験を行いました。

10月27日(土) 13:00~15:00

事業所名	テーマ(内容)
建築板金業	トタンバサミって意外と扱いが難しい。板金技術を体験し笛作りに挑戦してみよう
内容	参加者: 5名(男性0名/女性5名) 代表者の経歴及び、自社の沿革について説明。 建築板金の技法である八千代折、唐草折について説明と実演。また、銅板レリーフの作成方法についても説明した。参加者はトタンバサミの使い方の技術習得に終始し、笛づくりまでは進めなかった。

【ディスカッション】

◆開催日時: 平成30年11月17日(土) 10:30~12:30

◆開催場所: 湖東3町商工会五城目事務所

◆講師: ハバタク株式会社 代表取締役 丑田 俊輔 氏

Chiso 代表 柳澤 龍 氏

◆参加者: 9名(男性7名/女性2名)

◆内容

①講座: 「実在のひとりから考える未来のビジネスづくり」

②アイデアワークショップ

職人がもっている技術から制作物を考えるのではなく、実在のひとりに共感し、抱えている課題を考えることから、ものづくりのアイデアを考える。

③振り返り

ワークショップを振り返りつつ、事業者と学生など若手がどう関わっていけるかを考える。

ディスカッション開催内容要旨

テーマ: 実在のひとりから考える未来のビジネスづくり		
講 師	ハバタク(株) 代表 丑田 俊輔氏	chiso: 代表 柳澤 龍 氏
【内 容】		
菊地事務局長の開講挨拶のあと、今回製作した湖東の手技ワークショップの動画を上映し、		

映像でワークショップを再確認することで今回のディスカッションに繋げた。

次に、柳澤氏進行のもと、お互いを知る為に各自自己紹介を行った。

次に丑田氏が、「実在のひとりから考える未来のビジネスづくり」をテーマにアイデアの発想方や事例紹介、また自身が関わったシェアビレッジについて説明した。

また、柳澤氏を交えてアイデアワークショップを実施し、最後に柳澤氏が湖東の手技ワークショップについて振り返り終了した。

【講座】丑田氏

今回実施した手技ワークショップの事業所は実は凄い技を持っていたり、特殊な機械を所有していたり、お客様の繋がりであったり様々な魅力的な資産を保有していると思う。一方ビジネスを行う上で技術等の資産を誰に届けていくのか、対価を得たり、価値を提供する為の視点を両方もっていることが大事である。

今回は誰に届けたいのか、どういう人が作ったものを受け取ることで幸せになれるかを考えていきたい。

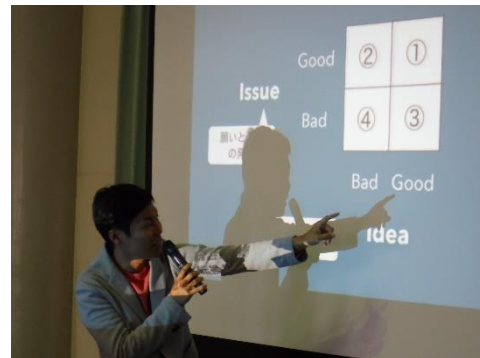
事業とは人を幸せにすることであり、それがやりがいでもあり素晴らしさである。

事業が続いたり、大きくなることで救われる人であったり、役に立つことで、協力や購入して頂けるのが商いである。

このことから、幸せの対価として利益を得ることが言えると思う。

ビジネスにおいて作り手の想いや、買ってくれる人の想い、人の想いが大事である。

事業承継や中小企業に入社した場合、若者の感性や未来への思いを掛け合わせることで創造もつかないビジネスが生まれてくる。



今回は思いと資産を掛け合わせて未来のビジネスを創造していきたい。

テーマは「未来のビジネスをつくりだす」であるが才能は必要無い。

問題とアイデアを掛け合わすことが重要である。

図-1 の説明

①はアイデアも問題への着眼点も共に Good であり素晴らしい。

④はビジネスとして成り立たない。

③はアイデアは良いが着眼点がずれている。見当違いなところどころにいくらアイデアをつぎ込んでもビジネスとしてお金がまわってこない。

②着眼点がとても良く、少しアイデアが突き抜けてこない時はアイデア自体を修正することで、

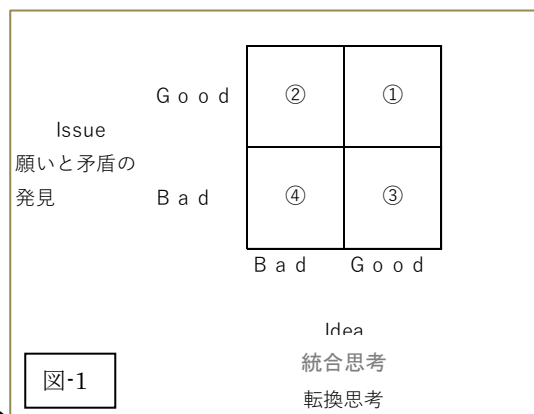
①に成り得る。

次にアイデアを出すためには4つの視点がある。

アイポッド、アイパッドは実在の友人の問題を解決する為に発明された技術であり、事例として説明した。

また、ヒートテックについても冬でも着ぶくれせずにお洒落でいたい銀座の人たちの為に開発されたことを事例として説明した。

このように、実在の一人の悩みを可決する為、その一人の為につくられたビジネスが世の



中には多くある。

実在のひとりに焦点を当てアイデアを出す一つ目の方法は、本人も気付いていなかったり、現実的に無理と諦めていたことを見つけることである。

例えばスポーツジムのカーブスは気軽にジムに行って痩せたい女性をターゲットにしたところ大勢の女性が押し寄せた。

従来のジムは外から見え、鏡もあり、鍛えた身体をアピールする場であったことから女性は痩せたいが気軽に行けなかった。

その諦めていたことを解決したのがカーブスであった。

また、爆発的に増えている1000円カットのQBハウスは、諦めていた短時間で納得のいく髪型にしたいという二つの矛盾した思いを従業員の育成や業務の質を向上させることで実現した。

つまり矛盾（トレードオフ）した想いや願いを超えていくことで未来のビジネスを作っていくことに繋がる。

アイデアは矛盾を超える為に何を総動員するのか考えていかなければならない。

矛盾を超えるには行動に移せない要因を探ることが言われている。

ヒートテックも「薄着でいたい」「暖かくいたい」この二つの矛盾を解決した。

二つ目はアイデアとは要素と要素の新しい組み合わせである。

量産されたパーツ（アイデア）を組み立てる。

三つ目が出されたアイデアを捨てたりせず、アイデアに隠れたエッセンスを組み合わせることや、面白いアイデアを因数分解することでアイデアが生み出される。

ニンテンドウのゲームコントローラーも元のアイデアから抽出したエッセンスにより生み出された。

このように複数の価値を組み立てる統合思考と言う。

四つ目は転換思考である。

当たり前のことを逆にしてみる。

前提を破壊した時に何が成り立つのかを考える。

実在の一人から着想し、矛盾を超える為のアイデアとして統合思考や転換思考によりアイデアを考える。

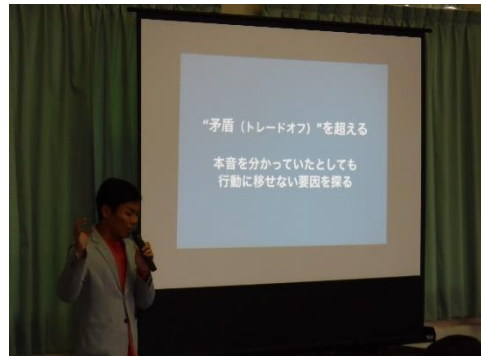
想いや資産（技術、設備、顧客 etc）を掛け合わせ、まだ見ぬビジネスが生まれてくると感じる。

最後に丑田氏が取り組んだ新しいビジネスモデルの「シェアビレッジ」について説明した。この事業は、「都会暮らしは捨てられないが、田舎の豊かさに関わりたい」という二つの矛盾を超えたいと考えた事業である。

美しい資産を未来に残す為に何が必要か、古民家を資産とし何が出来るのかとしたときに村とすることで、その村を因数分解した時に、年貢や一揆、寄り合い、里帰りといったエッセンスを加え、都会暮らしの人たちにいつでも帰ることが出来るふる里をつくり、同時に古民家の再生に繋がった。

転換思考として古民家の常識を覆した。

古民家や農家民宿は持ち主が住むから複数でシェアすることとした。



ビジネスではホテルは予約すれば誰でも宿泊できる。不特定多数を相手にしたビジネスを、少数で顔の見える会員（村民）を対象としたビジネスとした。

また、古民家を一緒に再生する、参加する立場に転換しジェアビレッジが生まれた。

【アイデアワークショップ】丑田氏、柳澤氏

①個人ワーク

Love & Hate（好きと嫌い）

Love：好きでたまらないこと。好きすぎて何でも出来てしまうこと。好きすぎて他人にひろげたいこと。

Hate：嫌いなこと。何とかしらいこと。

これを考えて代表者に発表してもらった。

②グループワーク

2班に分かれ以下の事案について検討した。

◆統合思考ワーク

まったく新しい“椅子”を創り出せ

椅子+LINE（→エッセンス抽出）=エッセンスを統合した椅子

1班：座るとバーチャルな世界へ飛んで行ってグループが出来て会話ができる。

2班：グループ機能、通知機能、スケジュール機能、椅子に座ってグループでゲームができる機能。座ると通知する機能。子供が椅子に座ると親に通知する等。社員のスケジュール、時間管理する機能。

◆転換思考ワーク

進化したスターバックスを生み出せ

スタバの前提→前提を転換し新たなスタバのアイデアを生み出す

2班：前提→コーヒー、スイーツ、お洒落、PC、etc…

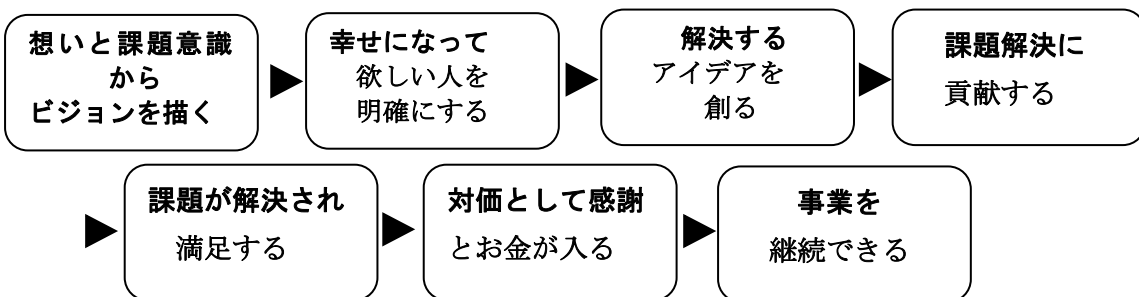
転換→和風、座敷、掘り炬燵、お茶、和菓子、着物

移動式でスタバス etc…

1班：店舗の前提を無くす。

転換→外で星を見ながら飲食する。

以上、まとめると以下の通りとなる。



【振り返り】柳澤氏

柳澤氏は次年度のワークショップ開催について参加者について各事業所でのワークショップを振り返り、最後に参加者に対して要望を聞いた。

要望は以下の通り。

●初回開催のワークショップは朝市まつりも組み入れたことで参加者も定数を超え、断っていたと聞いた。五城目町を知ってもらおう観点から、初回開催時のように観光も組み入れたワークショップを開催して欲しい。

- 自社でもワークショップを行ってみたいが、溶接や切断もあり危険である。この部分をクリアすることで試みたい。
 - 学生主体とか枠を設けるのではなく気軽に参加できるようにして欲しい。
 - 地元でいながらワークショップの開催を知らなかった。地域にも周知して欲しい。
 - こういう機会に中々恵まれず今回参加して、アイデアの発想について勉強になった。会議でも活かしたい。また、参加したい。
- ここで、予定した時間となり予定したカリキュラム全てを終了した。

【事業評価】

今回で3回目の実施となった「湖東の手技ワークショップ」であるが、秋田駅からのバス借り上げ料が補助対象外経費となった中での実施となった。

手技ワークショップ全体の参加申込書はディスカッションへの参加申込書も含め延べで37名、つくるワークショップ自体では延べで28名の参加申し込みであり、内訳としては大学生2名、一般の参加者が26名であった。

ワークショップを実施した事業所は今までの開催より1社多い6社で実施した。

残念ながら、初回日開催のワークショップは秋田県に接近した台風25号の影響により、県内のイベントが軒並み中止する措置を取ったことで、この日開催のワークショップについても安全を重視し中止した。

今回のつくるワークショップの参加申込者は実数では13名であり（男性2名、女性11名）今までの2回開催した時と比べ参加者数は減少した。

要因として考えられることは、バスでの送迎が無くなり、交通機関を利用して参加者が直接八郎潟駅に集合する形式をとったことや、開催日を分散にしたことで、興味のあるワークショップへは複数回の参加申し込みが可能となったことが要因と考えられる。

しかしながら参加申込者の述べ人数で見ると初回開催時と同じ参加人数となっており、分散開催により参加者の選択肢が増えたことが参加者数を押し上げた要因となった。

また、ワークショップ開催事業所を掘り起こしたことで6社の事業所が参加したことも参加申込者の選択肢が増え、そのことも延べ参加申込者数が伸びたと考えられる。

今回の参加者でみると、男性よりも女性の参加申し込みが多く、ものづくりに対する興味や意識は女性が高かったと言える。

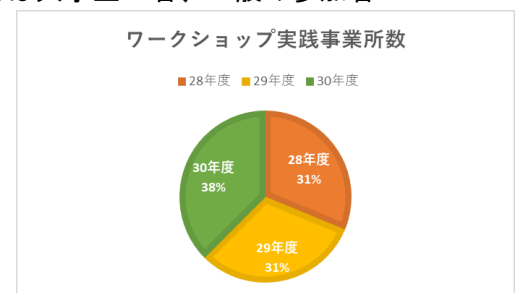
以上のことから、学生よりも一般の参加者が多かったことから、次年度では一般の参加者を柱に募集するか、女性限定のワークショップを開催することも案として考えていきたい。続いて、考えるワークショップであるディスカッションについては、参加申込者は9名であり、男性7名、女性2名の参加であった。

内訳としては大学生1名、ワークショップ実施者2名、若手経営者2名、後継者2名、一般2名であった。

当地域からの参加者が多く、外部に目を向け、外から当地区へ呼び込もうとしていたが、当地域でも、ものづくりや、仕事をつくること、起業、事業承継に対して興味を

持っている若手が多くいたことから、外から人材を呼び込み、起業や事業承継に繋げることも必要であるが、地元に向け、若手経営者や後継者を対象とした第二創業であったり、ベンチャー型事業承継についても考える必要があると感じた。

また、ワークショップの情報についても主に外部に向けに発信していたことで、地元では知られていなかったことや、参加者の中から自社もワークショップを開催してみたいとい



う事業所も現れ、ワークショップ開催事業所の掘り起こしに繋がったと同時に、地元の若手からの基盤づくりの必要性を感じた。

これらのことを踏まえ、当初の目的ある「職人の技術や既存製品に対して、新たな価値を付加し、地域地場産業のイメージアップと販路の開拓、事業承継や起業意識の醸成を図る」ことが実現できるように取り組むことを約束し、湖東の手技ワークショップの報告とします。

2018年11月30日

資料：チラシ配布内訳

配布先		配布枚数
1	秋田県立五城目高校	350
2	秋田県立金足農業高校	550
3	秋田県立男鹿工業高校	350
4	公立美術大学付属高等学院	100
5	公立美術大学	100
6	秋田県立大学	100
7	国際教養大学	100
8	秋田県観光文化スポーツ部観光振興課	50
9	ハローワーク秋田	30
10	秋田地域振興局	30
11	事業引継ぎ支援センター	30
12	五城目町地域活性化センター	30
13	八郎潟えきまえ交流館はちパル	30
14	井川さくら駅	30
15	商工会	120
		2,000



湖東3町商工会

018-1725

秋田県南秋田郡五城目町西磯ノ目1-3-1

TEL:018-852-3460

FAX:018-852-3495